令和６年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 10	公益目的事業　17
主査名	手塚広一郎　日本大学教授	
研究テーマ	交通インフラの整備効果と政策評価に関する研究	

研究の目的：

本研究は、令和４年度の研究（１年目）および令和５年度の研究（２年目）に引き続き、交通インフラを対象として、その政策評価に用いられる費用便益分析・費用対効果分析の今後のあり方について経済学的に検討し、今後の交通インフラを対象とした費用便益分析への改善案を提言することを目的とする。より具体的には、本研究では、先行研究が指摘している以下の４点について引き続き検討して、日本における今後の政策評価のあり方を提言する。

①費用便益分析の実施タイミング（事前・期中・事後）における望ましい分析手法の検討
②便益の範囲の検討（ストック効果、環境への効果など）
③費用便益分析の結果の解釈と EBPM（Evidence-Based Policy Making）での位置づけ
④諸外国の事例分析結果の日本への適用可能性

研究の経過（4 月～3 月）：

今年度は合計 3 回の研究会を開催して、研究会メンバー間で費用便益分析およびその周辺の経済学的課題に関する議論を深めた。3 回の研究会の報告者と報告タイトルは以下の通りである。

第 1 回研究会（2024 年 8 月 7 日）
石坂元一氏（中央大学商学部）「災害とリスクマネジメント」
第 2 回研究会（2025 年 1 月 27 日）
中村知誠氏　（慶應義塾大学商学部）　「広範な経済効果（WEIs）に関する基礎論点の整理」
第 3 回研究会（2025 年 3 月 6 日）
後藤孝夫氏（中央大学経済学部）道路事業における CBA の事前と事後の計測差異」

研究の成果（自己評価含む）：

今年度の研究成果として、以下の 3 点について明らかにした。

・リスクコントロールとリスクファイナンス間の望ましいバランスと政府の介入の妥当性
・WEIs を考慮する必要性と二重計上対策
・事前評価と事後評価の CBA 計測結果の差異と影響を与える要因

今後の課題：

今年度の研究成果を踏まえて、残された本研究の研究課題として、以下の 3 点をあげる。

① 費用便益分析の実施タイミング（事前・期中・事後）における望ましい分析手法の検討
② 便益の範囲（WEIs）の検討と日本への適用可能性
③ 事前・事後評価間の CBA 計測結果の差異分析と望ましいリスクコントロールのあり方の検討